

アステラス製薬株式会社様

創立：1923年（大正11年）
本社：東京都中央区日本橋本町2-3-11
社員数：16,279名（2011年3月末現在）
URL：www.astellas.com/jp/



アステラス製薬株式会社
コーポレートIT部 インフラグループ 課長
塩谷 昭宏 氏



グローバルなビジネスを展開するアステラス製薬

アステラス製薬では、「泌尿器」「免疫疾患および感染症（移植）」「がん」「精神・神経疾患」「糖尿病合併症および代謝性疾患」の5つの領域においてリーディングカンパニーをめざしています。こうした取り組みを具現化するために、「VISION2015」を策定。2015年までにNo.1企業になることを目標に掲げ、グローバルなビジネスを展開しています。「VISION2015」を支えるITインフラの一環として、世界共通のPC環境を提供しようというのが、今回のリプレースのきっかけです。PCのリプレースを推進した塩谷氏は、ThinkPadシリーズの導入の背景にこのような企業全体の取り組みがあったと語っています。アステラス製薬では、前身である藤沢薬品と山之内製薬が合併した後、2007年に米国バイオベンチャーであるアジェンシス社と、2010年には、がんおよび糖尿病/肥満領域に強みを持つOSIファーマシューティカルズ社を買収しており、これまでも地域ごとにITインフラの整備を進めてきました。しかし、グローバルな視点で見るとOSやアプリケーションもバラバラだったといいます。「製薬企業は機密情報の管理徹底が求められるため、一般企業と比較してもおそらく情報セキュリティは厳しいと思います。これまでの合併により、欧米と日本の各拠点で導入していたPCやネットワーク環境などが統一されておらず、出張先のオフィスで自社ネットワークにアクセスできないといったことが起きていました」と塩谷氏は語ります。

海外でも、日本でも、共通のIT環境を構築

利用者の利便性を図るため、いつでも、どの拠点でも共通したPC環境が利用できるよう2008年の春ごろからシングルベンダー化に向けた検討が始まりました。マルチベンダーからシングルベンダーへの移行は、企業にとって大きな決断だったと思いますが、迷いはなかったのでしょうか。「国内ですでにシングルベンダー化を進めていたため、迷いはありませんでした。もちろん社内ではいろいろな議論はありましたが、グローバルなビジネスを展開する上ではシングルベンダー化することが最善の方法だという結論になりました。OSの設定やセキュリティなど世界共通の運用管理ができるようになることで、シンプルな運用管理が可能です。また、世界のどこにいても自分のオフィスと同じ環境で仕事ができることは、社員の生産性向上にも繋がります」。塩谷氏をはじめとした日本のコーポレートIT部が全体の指揮をとり、エリアの代表である日米欧のIT部門が喧嘩と議論しながら導入の検討が進んで行きました。いつでも、どの拠点でも共通したPC環境を提供するため、OSや業務アプリケーションの統一にもこだわったといいます。

「約2万台のThinkPadをグローバルで導入。世界共通のITインフラ構築によって企業競争力を向上しました」。

アステラス製薬では、2015年までに自社の強みを活かした5つの専門領域で、世界市場におけるリーディングカンパニーをめざしています。こうしたグローバルなビジネス展開を支えるために、世界共通のITインフラを構築。フロントエンドとなるPCにThinkPadを導入しました。日本のコーポレートIT部が中心となり、グローバルリフレッシュを推進。ThinkPad導入の経緯やメリットについて、担当者に詳しくお話を伺いました。

課題

企業合併により拠点数が拡大した結果、世界の各拠点で使用するPCとITインフラが統一されていなかった。そのため、海外出張や異動においての社員の業務効率の低下が課題となっていた。

レノボのソリューション

約2万台のThinkPadをグローバルで一括調達、世界40カ国以上の拠点に展開。インテル® Core™ i5 vPro™ プロセッサ搭載したThinkPadの提案により、社員の生産性向上を提案。

採用のポイント

すべてのエリアにおいて機能評価でThinkPadが圧倒的に優位だった。また、前回のリプレースで、日本国内における大量導入に対応したことも大きな決め手に！



日米欧で高い評価だった レノボのThinkPad

当然のことですが、アステラス製薬では、グローバルな対応ができる、ということがPCベンダーを選定する上で最大の条件でした。そのため、最終選定に選ばれたベンダーは、グローバルサポートはもちろん、一括導入によるコストダウン、短納期に応えられる4社が残ったといえます。では、その中で、なぜレノボが選ばれたのでしょうか。「まず、日米欧の3つのエリアでPCに対する必要な条件を洗い出しました。プラットフォームなどの基本的な条件は世界共通とし、PCサイズやハードディスクの容量、画面の大きさ、バッテリー容量などは各エリアの要求を洗い出し、要求にあわせて各PCベンダーの機能評価を行いました。その機能評価でもっともスコアの高かったのがレノボです。これは、日米欧のエリアで共通した評価でした」。最終的な決定は日米欧のIT部門と調達部門の合同で行ったということですが、保守やコストパフォーマンスも含めた総合評価でもThinkPadの評価が最も高かったと塩谷氏は語っています。

約2万台のThinkPadを 短期間で導入

「国内では1万2千台のThinkPadを3ヵ月あまりでリプレイスしており、また一部のエリアでは導入が残っているところもありますが、グローバルで2万台を超える導入を実施しています。このように短期間での大量調達、大量導入は、どのベンダーでも対応できる訳ではありません。グローバルな調達ができるレノボだからこそ短期間での対応ができました」。アステラス製薬では、2007年に日本国内のリプレイスを実施、ThinkPadを一括調達、一括導入していますが、その時に得たレノボへの信頼が今回のグローバル導入に繋がったともいえます。「社内の調査では、約60%の利用者がリプレイスに満足しているという結果が出ています。60%という低いように感じる方もいるかもしれませんが、社内調査では20~30%の利用者が満足するのが一般的といわれているので、むしろ非常に高い評価を得ていると捉えています」。AES-NIにより暗号化および複合化を高速化できるインテル® Core™ i5 vPro™ プロセッサを搭載したThinkPadは、さらにレノボ独自のテクノロジーでCPUやOSパフォーマンス、セキュリティ処理を最適化しています。この調査結果は、ThinkPadの性能の高さを物語るものです。グローバル企業が求める高いシステム要求に応えるレノボのThinkPad。社員一人ひとりの生産性を向上し、グローバル市場におけるアステラス製薬の競争力強化の一翼を担っています。



指紋認証や暗号化に対応。セキュリティにも強い THINKPAD X201

新薬についての情報漏えいは、製薬会社にとって数十億単位での損失に繋がりがねません。ThinkPadは、こうした情報漏えいや外部からのアタックなどのリスクを防止するためにBIOSパスワードや指紋センサー、Client Security Solutionなどの高度なセキュリティ機能を提供。携帯性に優れたこの1台に、オフィスのニーズに応える高度な機能を詰め込んでいます。



指先ひとつでシステムの起動が行える指紋センサー

レノボの担当営業より



レノボ・ジャパン株式会社
エンタープライズ事業
右：関根 悟（せきねさとる）
左：萩原智史（はぎわらさとし）

アステラス製薬様には2008年の春ごろからご検討いただき、当社のThinkPadの導入が決定しました。2万台を超えるグローバルレベルでの調達は、私たちレノボ・ジャパンにとっても初めての経験でした。また、短期間での展開に応えるため、当社の海外

拠点と密な連携を図り、導入をお手伝いさせて頂きました。ここ日本で開発されたThinkPadの素晴らしい機能性をお客様にお伝えしながら、信頼頂けるITパートナーでありたいと願っています。

Webサイトをご覧ください ▶ www.lenovo.com/jp/ep